

Q4： 学級活動の指導案は、どのようなことに留意して作成すればよいですか。

はじめに

学級活動(1)の指導案については、「平成23年度塩谷南那須の教育 Q&A」で示しましたが、平成23年11月に国立教育政策研究所から「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」において具体的な指導案等が示されました。
 ここでは、国の資料の趣旨を踏まえて前回の指導案を修正・改善し、小学校の活動内容(2)のキ「バランスのよい食事」(高学年)を具体例として示しますので、参考にしてください。

学級活動指導案

「題材名」ではなく、「題材」と記述する。

「バランスのよい食事をしよう」ではなく、「バランスのよい食事」と記述する。

平成〇年〇月〇日(〇) 第〇校時
 第〇学年〇組(〇名) 指導者 〇〇〇〇

- 1 題材 バランスのよい食事
- 2 評価規準と本題材が目指す児童の姿

観点	集団や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活への知識・理解
評価規準	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活を……	楽しく豊かな学級や学校の……
目指す児童の姿	・アンケートなどから、学級内の食事の課題を真剣に受けとめている。	○「評価規準」は、国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」において例示され、その中で、各教科における評価規準の設定例は「おおむね満足できる状況」を示しているのに対して、特別活動は「十分満足できる活動の状況」を示している。各学校では、その趣旨を踏まえ、低・中・高学年ごとに自校化したものを掲載する。 ○「評価規準」は、1単位時間ごとには作成せず、ここには活動内容(2)のA～キ全体につながる内容を記述する。 ○「目指す児童の姿」とは、本題材において評価規準から想定した児童の具体的な姿(言動や態度等)である。特別活動の教育的意義は「なすことによって学ぶ」であるので、評価規準を指導に生かすためにも、児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについての共通理解を図ることが重要になる。 ○「目指す児童の姿」は、上記の評価規準を踏まえ、本題材のねらいや内容に即して、「十分満足できる活動の状況」を記述する。ここでは、活動内容(2)のキについて記述する。 ○「目指す児童の姿」は、事前、本時、事後の活動全体を見通して、各観点をバランスよく設定することが望ましい。	

- 3 題材について
 - (1) 児童の実態
 - (2) 題材設定の理由
 - (3) 指導観
- 4 学校課題(研究主題)との関連
- 5 人権教育の視点
- 6 生かしたい児童
- 7 活動及び指導と評価の計画

○上記の「目指す児童の姿」から記入し、評価方法を加える。

	日時(活動形態)	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事前	〇/〇(〇) 【朝の会】 【計画委員】	・アンケートや残菜調査の結果をまとめる。 ・自分の食事の問題について、考えておく。	・題材について事前に予告し、関心をもち生活させ問題意識を高めておく。 ・学級の児童の問題等について、家庭に通知し協力を依頼しておく。	【関心・意欲・態度】 ・アンケートなどから、学級内の食事の課題を真剣に受けとめている。【観察・アンケート】
本時	〇/〇〇~ 【学級全員】	「本時の活動」参照 ○例えば、事前に「関心・意欲・態度」を、本時は「思考・判断」を、事後で「実践」と「知識・理解」に重点を置くなども考えられる。 ○このように観点を囲ったり、下線を入れたりすることも考えられる。これは、「目指す児童の姿」のうち、この活動において特に重点的に評価する部分を示している。	「本時の活動」参照	【思考・判断・実践】 ・食事の課題の解決方法について考えている。【観察】 【思考・判断・実践】 ・自分の課題に合った実行可能な取組や方法などを決めている。 【観察・自己決定カード】
事後	〇/〇〇~ 【学級全員】	・〇/〇〇~〇/〇〇の5日間、決めたことを実行できるよう努力する。 ・実践後に、バランスのよい食事をすることの重要性を認識し、自他の食生活を振り返る。	・児童に助言や励ましを行ったり、家庭の協力を得たりして、継続して確実に実行できるようにする。 ・実施状況などを友達と振り返り、「自分もやればできる」という今後の「きっかけ」になるよう、また、成果が実感できるよう支援する。 ・バランスのよい食事が重要であることを認識できるよう声かけをする。	【思考・判断・実践】 ・自分で決めたことについて粘り強く努力をしている。 【観察・がんばりカード】 【知識・理解】 ・バランスよく食べることの重要性について理解している。【観察】

8 本時の活動

(1) 本時のねらい

- 自他との関わりの中で、個人の在り方を自己決定できるようにするための「指導のねらい」を記述する。
- 「本時のねらい」は、1単位時間当たり、一つないし二つ程度を記述する。

(2) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動	時間	形態	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法	資料
導入	1 好きな食べ物や嫌いな食べ物のアンケート結果から自分の食生活を振り返る。			<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果などは、表やグラフで視覚化し、「バランスのよい食べ方でないことが多い」という問題点を共有化し、一人一人が自分の問題として捉えられるようにする。 昨日の残菜の写真から、「これは何とかしなければならない」と自分の問題として実感できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価規準に即して、本時における「目指す児童の姿」を示す。 ○「目指す児童の姿」は、本時のねらいに応じて、一つないし二つ程度設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフ、アンケート調査や実態調査の結果、映像など
	<p>イメージ こんな問題があるのか、なんとかしなくちゃ</p> <p>2 上記の課題に対する自分の食事についての問題点を把握する。</p> <p>【めあて】 バランスのよい食事について考えよう</p>			<ul style="list-style-type: none"> 【発問の例】 「写真の残菜は野菜が多いね。嫌いな食品もあるようだね。でも、どうして嫌いな食品を食べることが大切なのかな？」 問題点が分からない児童には、自分の食生活と比べられるよう説明する。 板書した「めあて」を学習プリントに写させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が学習活動を行う上で、資料の活用や活動の場づくり、グループでの話し合い、チーム・ティーチングの実施、ゲストティーチャーの活用、簡単な実験の実施、体験談を聞くなど、工夫をする点について指導者の立場で記述する。 	
展開	3 T2の話聞き、各自の課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> T2の話から、自分の課題について自覚させ解決の糸口を探るよう支援する。また、残菜から食事のバランスが悪いことに気付かせ、問題の重要性を理解させたり解決の意欲を高めたりする。 「学校給食を生きた教材」として活用する。 自分の課題解決につながるよう発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・実践】 食事の課題の解決方法について考えている。【観察】 	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な資料、実物、道具、写真、映像など ○図版、絵、写真など ○学習カードなど
	<p>イメージ 原因はどこにあるのだろう どんな解決方法があるかな</p> <p>4 グループに分かれて、課題の解決方法などについて話し合い、自分の考えを広げる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 【発問の例】 「(今日の給食に関係した食品の動きの説明をT2から聞いて)『赤と黄と緑の食品』をバランスよく食べるには、どうしたらよいだろう？」 ◎課題の対応策について友達の意見を聞き、多角的に考えさせる。 解決方法が多く出し合えるような話し合いになるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【キーワード】 集団思考を生かした個人目標の自己決定 	
終末	5 自分の課題に合った「努力すること」を決める。			<ul style="list-style-type: none"> 自分が解決するための目標や手立てなどを、「いつ、どこで、何を、どのようにするのか」を自己決定できるように支援する。 友達の目標や決意などについても聞き、互に関心をもって努力できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・実践】 自分の課題に合った実行可能な取組や方法などを決めている。(聴・記決動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己決定カードやがんばりカードなど
	<p>イメージ 自分はこの方法でやってみよう</p> <p>6 本時を振り返り、カードに記入する。また、互いに自分の努力することを発表し合う。</p> <p>7 教師のまとめの話を聞く。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 事後につながるまとめをする。 		